

平成23年度 第4回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成24年2月7日（火） 14時00分～16時00分
- 2 開催場所 宇都宮市役所議会棟3階 第2委員会室
- 3 出席委員 14名
廣瀬委員長，福田副委員長，小林委員，石嶋委員，櫛淵委員，荒井委員，高崎委員，塚田委員，吉田委員，勝田委員，磐井委員，伊藤委員，河田委員，石川委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
 - (1) 報告事項
 - ①宮っ子ステーション事業の実施状況について
 - ②親力向上支援事業の実施状況について
 - ③地域はみんなの学校づくり事業の実施状況について
 - ④平成24年宇都宮市成人式の実施状況について
 - ⑤宇都宮市民大学（後期講座）の実施状況について
 - (2) 協議事項
 - ①平成24年度社会教育関係団体に対する補助について
 - ②「（仮称）宇都宮市成人教育推進計画」の素案について
 - ③平成24年度社会教育の基本方針及び重点施策について
 - ④平成24年度文化行政の基本方針及び重点施策について
 - (3) 情報提供
 - ①東日本大震災に関する「ワークショップキャンペーン remember 3.11 in とちぎ」への協力について
 - ②第4回うつのみや地域教育メッセについて
 - ③第4回うつのみや人づくりフォーラムについて
 - ④宇都宮市まちづくりセンターの開設について

7 閉会

8 発言の要旨

廣瀬委員長 | 平成23年度最後となる，第4回目の会議です。本日は，報告事項が5件，協議事項が4件，情報提供4件と，多くの案件がありますが，お一人あたりの発言の回数にはできるだけ確保したいと思っております。簡潔にご発言いただくことで，多くの方の意見を聞きながら協議を進めていきたいと思

いますので、ご協力をお願いします。

それでは、最初に報告事項から始めます。報告事項の1「宮っ子ステーション事業の実施状況について」事務局から説明願います。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

ご質問などありましたら、いかがでしょうか。

石川委員

宮っ子ステーション事業については、知り合いのお母様から、泉が丘小学校でもぜひ早く実施してほしいとのリクエストをいただいております。

廣瀬委員長

市民から、ぜひ自分の学校でも実施してほしいという声があることを、事務局に伝えたいと思います。予算の関係もあるかとは思いますが、よろしくをお願いします。その他、この件についてはよろしいでしょうか。

それでは、次の報告事項に進めさせていただきます。報告事項の2「親力向上支援事業の実施状況について」事務局から説明願います。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

親力向上については、本日議題となっている成人教育との関わりも強いと思います。親学出前講座の成果として、「子育てを振り返る良い機会となった」という意見が書いてあります。福田副委員長、PTAの関係から、何かご助言や情報提供があればお願いしたいのですが。

福田副委員長

宇都宮市PTA連合会では、親学の推進ということで、2008年から、「親の振り返りカード」を使用しております。資料では、「事業の概要」の中に「市P連と連携した親学の推進」と書いていただいておりますが、今年度、新たに中身を見直して、親の振り返りを行いました。前回と比較して、親の意識がどう変わったかなどのデータが出ております。今後それらを情報提供させていただきますので、施策に活かしていただければと思います。

親の振り返りというのは、親が学ぶ機会を親同士が啓発していこうということから始まったもので、基本的なことが20項目程書いてあります。具体的には、自分から地域の方々や子どもたちに挨拶しているか、子どものしつけを学校任せにしていないか、また、PTAや地域の活動に取り組んでいるか、などというものがあります。昨年大震災があったので、そこからの気づきや意識などに重点を置いて行った取組でした。しかし、家庭におけるコミュニケーションについて、2008年の時は、70%以上の方がコミュニケーションを図っているとのことでしたが、今年度、家族で十分に話し合う時間をもっていると答えた方は50%でした。同じ内容を聞

いているのに、どこに原因があるのだろうと感じました。

このような振り返りの取組は、全ての小中学校の保護者の方々を対象として進めておりますので、社会教育委員の皆様にも、保護者は保護者なりに啓発しているということを情報提供させていただきます。

また、親の意識については、子どもが小学校に入る前の保育園・幼稚園のうちにしっかり持っていただくことが大切なのではないかと思います。特に、0歳から3歳未満の子どもがいる親に対し、気づきを与えられるような講座を充実させていってほしいと感じております。

廣瀬委員長

ありがとうございました。大人は、自分を振り返ることを通じてでなければ、なかなか変わらないところがありますので、その意味でも親力向上支援事業が一層注目されるところです。皆様から他にご意見やご質問はございますか。

では、報告事項の3「地域はみんなの学校づくり事業の実施状況について」事務局より説明願います。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

何かご意見やご質問はございますか。

小林委員

地域はみんなの学校づくり事業については、各学校で定着してきており、地域協議会を通じた様々な活動が行われているところです。そのような中で、地域によっては人材が広がりにくい状況であるとか、また、活動がマンネリ化してくるなどといった傾向も若干見受けられます。

廣瀬委員長

小中一貫教育や地域学校園の中で、この「魅力ある学校づくり地域協議会」がどのような役割を果たしていくかということが、大きな課題になってくるのだろうと思います。ただ学校支援ボランティアをやっていけば地域づくりになるというものでもないで、そのつながりをどう作っていくかということが、地域コーディネーターの重要な役割になるのだと思います。

石嶋委員

私は五代小と若松原中の地域協議会に参加しております。若松原中の地域協議会では、食育関係やちょいボラ（ちょっとボランティア）などに積極的に取り組み、地域をあげて学校を盛り上げていこうという雰囲気になっております。これから、メンバーをもっと増やして、勢いのある明るい地域にしていきたいと思います。

廣瀬委員長

ありがとうございます。他に地域協議会に関わっている方はいらっしゃいますか。

塚田委員	私に関わっているところでは、まだ組織づくりが途中の状況で、今一生懸命進めているところです。他の地区ではどの程度組織づくりができていますのか、教えていただければと思います。
磐井委員	富士見地区では、授業が終わった後の時間帯などに、地域の方々が昔遊びや読み聞かせを行っているようです。結構人数が集まって、意欲的に活動しているという報告を受けています。皆を引っばってくれるリーダー的な方がいるかどうか、地域差があると思います。
伊藤委員	私は国本地区ですが、地域学校園が始まるということで、小学校と中学校の連携を、地域協議会同士で強めていこうという話が出ています。地域コーディネーターたちが集まって、その調整をしようと話しておりまして、それぞれの地域協議会のまとめ役は、中学校が担うという形で進んでおります。
廣瀬委員長	私も陽東中学校区で参加していますが、小学校でも地域協議会があるので、中学校の立ち位置が難しいと感じております。
勝田委員	私は城東地区ですが、地域コーディネーターの発掘が難しく、悩んでおります。今やっている方が3月でやめるとのことで、12月から探し始めているのですが、小学校のPTAなどの線で探しても、下のお子さんが小さくて夕方まではできないという方が多い。また、もっと上の年代ですと、子どもが高校・大学に行って、母親は仕事に出ているなど、なかなかご自宅にいらっしゃるお母さんが見つからない現状です。先日、地域コーディネーターが参加する情報交換会などもあったようですが、地域コーディネーターの発掘は難しく、更に力を入れていかなければと思います。
吉田委員	平石地区では、小規模校が多く、地域コーディネーターをPTAの経験者になんとかお願いしているという状況です。しかし、お願いできる方達の絶対数が不足しており、どうしても、学校に関わる事業・団体に参加するメンバーが重なってしまいます。参加する方が、様々な肩書きを持って非常に忙しいので、一つ一つのことについて、どこまで注意深く子どもたちに接してあげられるのか、少し危惧しております。子どもや保護者が多い地域と、小規模校の場合とでは、事情や条件が異なっているので、どのように対応していけばいいか、考えております。
廣瀬委員長	市の方でも、研修会や情報交換会を実施しておりますので、今後それらを活性化して行って、皆様の課題を解決していただければと思います。 では、報告事項の4「平成24年宇都宮市成人式の実施状況について」事務局より説明願います。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

出席した委員に、ご感想など報告していただきたいと思います。

伊藤委員

全体としては、とても素敵な式だったと思います。私は実施委員にも入ったので、成人式の企画の段階から参加させていただきました。実施委員会の打ち合わせで、新成人の実施委員からは、なぜ中学校でやらないのかという話が出ていました。新成人対象に行ったアンケートでは、7割の新成人がホテル・結婚式場が良いと答え、評価が高いという結果が出たようですが、私もできることなら地域で子どもたちの成長を祝ってあげたいと感じたところです。

廣瀬委員長

それが社会教育の本質ですね。開催場所については、これまで社会教育委員の会議で検討してきた結果、ホテルを使うという現在の形になっているようですが、本来成人式は、地元で祝うための行事です。施設が寒いなどの問題はあるかもしれませんが、中学校の体育館やコミセンで行うのが、本来のやり方ではないかと思います。

高崎委員

私は一条中学校区に参加させていただきました。伊藤委員がおっしゃっていたように、全体的には非常に素晴らしかったと思います。ただ細かいところでは、いくつか気になる点もございました。まず、市長のビデオメッセージの前に映像が流れますが、そこに昔の宇都宮空襲の映像が出ます。私たちが見ると、昔の映像は懐かしかったり、ああこのようだったのだな、と思うのですが、新成人から見ると、遠い昔話をやっているようで、よくわからなかったのではないかと思います。また、来賓の祝辞を聞かずに話をしている新成人や、会場に入らず騒いでいる人などがいて残念でした。全体としては、とても良かったと思います。

櫛淵委員

昨年も成人式の反省点についてはいくつか要望を出したのですが、各生涯学習センターや実施委員会に届いているのか、お聞きしたいと思います。私は宮の原中学校区と一条中学校区の2会場に参加しました。やはり騒いでいる新成人がいて、残念に思いました。また式典の時に、ショールを外さない新成人が多かったので、帰る際司会者に、ショールを外すようアナウンスしないと駄目だと言ってまいりました。現代は、新成人の母親も、ショールは外用で、中に入る時は取るのだということ子どもにしっかり教えていないのだと思います。

また、ある会場では、自治会長や体協会長、青少年育成会長などが出席していませんでしたが、地域の方々が、成人式に行って祝ってあげよう、というやり方をしなければならないと思います。

廣瀬委員長	やはり成人式は、地元の人たちがお祝いするということを前提に行っている事業です。現在も、地域の方々が集まって実施しておりますが、そのような原則を大事にしながら進めていってほしいと思います。事務局から何かありますか。
事務局	櫛渕委員からのご質問についてですが、社会教育委員の会議で出た意見は、毎年実施委員会事務局の担当者会議で、きちんと申し伝えております。本日いただいたご意見についても、来年度事務局に伝えてまいります。 新成人のショールの件についても、昨年ご指摘をいただき、事務局に伝えたとところですが、ショールがファッションの一つになっているということもあり、外すことが徹底できていない現状のようです。今後は、司会から式典中はショールを外すようアナウンスを行うなど、各会場において改善を目指していきたいと考えております。
伊藤委員	式典では、「宇都宮の歌」を流しますが、この歌を知っている新成人が少ないと思います。実施委員会の打ち合わせでも、新成人がざわつくので流さない方がいいという意見と、市の歌があるということを知ってもらうチャンスだから流した方がいいという意見が出ました。「宇都宮の歌」は、小学校などで歌っているのでしょうか。もう少し浸透させた方がいいのではないかと感じました。
塚田委員	私は星が丘中学校区に出ましたが、確かに「宇都宮の歌」を流すと、新成人が知らないためざわついていました。以前に別の会議で、「宇都宮の歌」を普及させるため、CDを作って配布したらどうかと提案しましたが、著作権の問題があってできないということでした。現在教育委員会では、「宇都宮の歌」を普及させるための方策をとっているのか、お聞きしたいと思います。
小林委員	各学校においては、折りに触れ「宇都宮の歌」を流そうという意識は高く持っていると思います。学校の校内放送で流すなど、それぞれ工夫しながら、子どもたちの耳に触れさせております。
事務局	教育委員会から各学校に対しては、行事などの機会を捉えて「宇都宮の歌」を流すよう指導しております。ただ、今年の新成人が中学生だった頃は、市の方で歌の普及を始めた時期でございまして、記憶にあまり残っていません。またすべての学校に浸透していません。ということがあるのだと思います。今後、新成人となる世代は、「宇都宮の歌」を知らないということはないと考えております。

廣瀬委員長	<p>普及の効果が現れてくるのは、もう少し先ということですね。新成人が市の歌を知らなくても、流すということに意義があると思います。</p> <p>では、報告事項の5「宇都宮市民大学（後期講座）の実施状況について」事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
廣瀬委員長	<p>受講者も非常に多く、充実した講座になっていると思います。何かご意見やご質問はございますか。</p> <p>無いようですので、協議事項に入りたいと思います。協議事項の1「平成24年度社会教育関係団体に対する補助について」事務局から説明願います。補助交付団体の関係者は、一旦ご退席願います。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
廣瀬委員長	<p>事務局から示された社会教育関係団体に補助をすることについて、ご意見はございますか。よろしいでしょうか。</p>
	<p>【異議なしの声】</p>
	<p>それでは、社会教育委員の会議の意見としては、事務局の原案を支持するという事でまとめたいと思います。</p> <p>では、協議事項の2「（仮称）宇都宮市成人教育推進計画」の素案について」事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
廣瀬委員長	<p>教育委員会が大人の教育について提言し、計画をつくるというのは、容易なことではありませんが、敢えてこのような難しい課題にチャレンジしていくことが必要だと思えます。</p>
河田委員	<p>この計画ができれば素晴らしいなと思えます。</p> <p>ただ、昨年も成人式における新成人の態度については意見がありましたが、本日も、来賓の祝辞を聞かない、ショールを外さないといった様子を聞きますと、非常に子どもたちに不安を感じます。これは、今までの教育の結果が出ているのだということ、私たちが改めて感じなければならないと思います。今、学校教育と家庭教育、社会教育の3つの柱がうまくまわっていない結果として、このような二十歳の子どもがいるのです。本当に教育とはこれでいいのか、今後の教育をどうすればいいのか、考えていかねばなりません。</p>

このような中、宇都宮市では成人教育というものをテーマにしようとしており、非常に素晴らしいのですが、人は幼児の頃から学校教育や家庭教育があつて、社会教育があるという形を、改めて見つめ直していかないとと思っております。そして、成人教育を実際に具現化していくためにはどうすればいいのか、そこをもっと議論して方策を考えていかないと、大人も子どもも変わらないのではないかと感じます。

廣瀬委員長

成人式の話は私も気にしております。昔テレビ番組で、一升瓶を振り回して大騒ぎしている新成人の映像がありました。その映像のタイトルは、「私たちが教えたこと」。なかなか皮肉ですよ。私たち大人が、子どもがこうなるように教えてきてしまったのだと。成人式の問題は、大人がどうすればいいかという、まさに成人教育の問題だと思います。

小林委員

学校教育の立場から言いますと、例えば子どもの社会性の育成などは、どこの学校でも大きな課題となっており、一生懸命取り組んでいると思います。しかし、道徳教育は、学校の中だけで行っても、なかなか成果が得られにくいのです。子どもが帰る家庭や、出ていく社会が、学校で教わった道徳教育とは全然違う状況、ということがあるためです。大人が、自分たちはこのままでいい、という考え方をせずに、大人の問題と子どもの問題を一緒に考えていくことが大切かと思えます。

河田委員

今学校における道徳教育の問題が出ましたが、アプローチの仕方が、こうしなさい、ああしなさいと教えるような、伝統的な方法ばかりなのではないかと感じます。例えば、友達は大切だと道徳の授業で扱ったのに、次の休み時間でいじめが起きたりする。これは、授業で、友達が大切だという言葉押し付けているだけで、子どもたちがそのことを本当に感じるというところまではいっていないためだと思います。

もちろん学校教育の中で、真剣になって道徳教育をどうしようかと考えている教員の方もいますが、道徳教育は教科指導が入らないこともあり、片手間のよう形でやられているところもあるのではないかと感じます。ジレンマ授業など、もう少し進歩的なアプローチを研究して取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。

スポーツの世界では、スポーツマンシップという言葉を使いますが、スポーツマンシップを指導している先生は、違反したことに対して、ただペナルティを与えるだけです。ルールを違反するというのはどういうことなのか、子どもたちに感じさせるような教育をもっと研究し、議論していくと、段々変わっていくのかなと思います。

小林委員

指導法については、永遠の課題のような部分があるので、こうすれば絶対にいい、ということはないと思うのです。今はいじめの問題でも、単に子

ども同士の小さなトラブルだったものが、保護者同士の争いになってしまうこともあります。学校教育の現場でも、非常に苦勞している現状です。

河田委員

学校教育において親の問題がある場合など、どこか皆、遠慮しがちになりますが、学校が苦勞しているということをもっと強く訴えてもいいのではないかと感じます。学校教育がどうあるべきか、どうしていったらいいのかということをもっと考えて、そこに何か問題があるなら、その問題がどうということなのか話し合い、変えていくべきではないのかなと思います。

吉田委員

河田委員のご意見は、私も全くその通りだと思います。
例えば硫黄島や沖縄の問題は、まだ十分には手をつけられていない状況にあると感じます。社会全体の問題ですから、学校教育は口を出しにくい部分かと思いますが、このようなことに対し、我々大人自身がきちんとけりをつけてきていないのです。きちんとしたけじめをつけていないことが、学校教育などすべてに影響を及ぼしている気がします。成人教育においても、我々がけじめをつけて、考えをもっと世の中に訴えていくという視点を持ちながら、施策を進め、管理していく必要があると思います。

石川委員

資料についてですが、「基本的な考え方」の部分に出てくる「気づき」と「築き」は、大変いいなと感じました。
また、「国・県などの動向」の部分で、国際成人力調査（PIAAC）という単語があり、私は初めてこれを知って興味を持ったのですが、今後国でどのようにしていくのかということを中心に教えていただければと思います。今後、宮しぐさなど、目標値や指標を考えていく上で、これが参考になるようでしたら、私たちも勉強していく必要があるのではないかと思います。

事務局

OECDの方で進めている国際成人力調査については、先進国のいくつかに参加しており、今後新たな国際指標になっていくと予想されます。その中で出た結果などについては、今後国の施策に反映され、フィードバックされるという情報があります。

廣瀬委員長

子どもの学力調査はすでにありますが、大人に対しての取組ですね。主に職業能力の開発がベースになるのですが、日本での導入は今検討されているという段階ですが、社会政策を進める時の目安として、非常に注目されています。成人教育を考えるうえでも、必要な情報になると思います。

福田副委員長

「課題解決に向けた取組の視点と基本的方向性」という部分がありますが、まさにこれをそれぞれのPTAでやってほしいと考え、宇都宮市PTA連合会で親の振り返りに取り組みました。振り返りを行って結果が出た後、

そこから問題点を自分たちで見つけ出し、学校でどう進めていったらいいか考える。そのように、課題を見つけて、更に解決までの道筋を見つけてもらいたいと取り組みました。しかし、これまで経験がないので、なかなかそこまでいけない人や学校が多かったようです。連合会としても、いろいろな手助けをしましたが、気づきはあっても、それを活かすまでの道筋を見つけてもらうのは難しいと感じました。

資料を全体的に見させていただき、大人の責任が問われているという印象を受けました。今大人が子どもを育てる際、いずれ大人になる子どもを育てている、という意識が欠けているような気がします。先ほど、子どものけんかに親が出てくるという話がありましたが、子どもの人生を親が生きてしまうというのが、現代の保護者の有り様なのかなと思います。大人の責任で子どもを育てるということを、強く打ち出せるような、投げかけられるような言葉を使っていただけるといいのかなと思いました。

また、宮人や宮っこなど、宇都宮市ではよく「宮」を使いますが、宮というのは宇都宮だけでなく、西宮や大宮もあります。ある音楽家の方もおっしゃっていましたが、宇都宮は宇宙の宮なのだから、ふるさとを大切に思う気持ちを助成するためにも、宇都宮っこなどのように、「宇都宮」という言葉を使ってもらいたいと感じました。

更に、成人教育とは、内容が多岐に渡り、年齢も幅広い方が対象となるので、生涯学習課だけでなく、男女共同参画課や高齢福祉課、障がい福祉課など、庁内で連携をとりながら、取組を進めていくことが必要だと思います。PTAで親の振り返りを行った時も、PTA会長だけではなく、研修委員会の方にもお願いするなど、様々な方を巻き込み、全体的に取り組むようなムードをつくっていきました。成人教育についても、ぜひ、全庁的に取組を進めるようお願いしたいと思います。

廣瀬委員長

この計画はまだ素案の段階ですが、今年度の会議は本日が最後となります。今年度中に成案をつくることになっておりますが、成案については、私と副委員長に一任していただくということで、ご了解願えますでしょうか。よろしいでしょうか。では、私と副委員長の方で、皆様の発言や議事録を整理したうえで、最終的な案を事務局と協議していきたいと思いますので、ご了承ください。

それでは、協議事項の3「平成24年度社会教育の基本方針及び重点施策について」事務局より説明願います。

事務局

【資料について説明】

廣瀬委員長

皆様からご意見やご質問はございますか。

吉田委員

重点施策に「庁内の人づくり事業との連携」とありますが、具体的にはど

のようなものでしょうか。いろいろな課でやっているのですが、いくつか挙げていただければと思います。

事務局 庁内の様々な部局で人づくり事業を行っております。例えば、市民生活部ですと、交通安全など、「安全・安心なまちづくり」を進める上で中心となる人の育成でありましたり、教育委員会事務局内でも、教育企画課において、これから宇都宮をつくっていく人づくりをどう進めていったらいいのか、その目標となるようなものを打ち出していこうなど、社会総ぐるみでの人づくり事業を今検討しているところです。また、自治振興部では、まちづくりを進めていくための、その地域のリーダーとなるような人づくりを行うなど、各種様々な事業に取り組んでおりますので、そういったところと十分な連携をとりながら進めていきたいと考えております。

廣瀬委員長 その他はよろしいでしょうか。それでは、平成24年度社会教育の基本方針及び重点施策について、了承いたします。
続きまして、協議事項の4「平成24年度文化行政の基本方針及び重点施策について」事務局より説明願います。

事務局 【資料について説明】

廣瀬委員長 何かご意見やご質問はございますか。

吉田委員 宇都宮美術館で行われる施策や展示は良いと思うのですが、周辺の林道の脇にゴミが目立つことがあります。文化施設周辺の環境整備という意味で、もう少し気遣いがあってもいいのかなという気がするのですが、庁内でごみ減量課と連携をとるなどの対応をお願いしたいと思います。

高崎委員 細かいことですが、疑問点がいくつかございます。宇都宮市と妖精がどのような関わりがあるのか、私はよくわからないので、教えていただければと思います。また、市民芸術祭についてですが、なぜ宇都宮市は文化協会が主催でなく、市が主催という形をとっているのでしょうか。

事務局 まず妖精の件ですが、妖精研究の第一人者である井村君江さんが本市出身であり、その方から宇都宮市が妖精資料の寄贈を受けたことから、妖精のまちとしてまちづくりを推進しているところです。また、市民芸術祭につきましては、市民芸術祭の実行委員会を立ち上げ、そちらが主催となって実施しております。

高崎委員 栃木県の場合は、文化協会が主催になって実施する形をとっているようですが、他の県や市町村などはどのように行っているのでしょうか。

事務局	他の県などの状況につきましては、細かい資料がなく、把握はしておりません。
高崎委員	栃木県は、栃木県文化協会が主体として実施しているので、ジャンルごとの内容や開催日時、場所などがよくわかるのですが、宇都宮市の場合、自分の関係しているジャンル以外についてはわかりにくいという現状です。PRが少なく、情報が共有されていないと感じるので、周知徹底するような場を考えていただけるといいのかなと思います。
事務局	市民芸術祭については、県や市町村によって実施方法は様々かと思いますが、宇都宮市の場合は、市民芸術祭実行委員会を組織して、それぞれの文化団体から実行委員会のメンバーになっていただいております。そのような中、実行委員として参加いただく方は、文化協会に加入している方が大半となっております。市民芸術祭の情報は、市のホームページや広報紙でPRさせていただいているところですが、今後は、実行委員会から文化協会へ、内容や開催日時など積極的な情報提供を行うことにより、文化協会会員の方々への周知に努めてまいりたいと思います。
廣瀬委員長	その他はよろしいでしょうか。それでは、平成24年度文化行政の基本方針及び重点施策について、了承したいと思います。 続いて、情報提供についてです。情報提供の1「東日本大震災に関する「ワークショップキャンペーン remember 3.11 in とちぎ」への協力について」、2「第4回うつのみや地域教育メッセについて」、3「第4回うつのみや人づくりフォーラムについて」をまとめて、事務局より説明願います。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	ありがとうございました。引き続き、情報提供の4「宇都宮市まちづくりセンターの開設について」事務局より説明願います。
事務局	【資料について説明】
廣瀬委員長	情報提供1から4について、何かご意見やご質問はございますか。無いようですので、以上で本日の議事を終了させていただきます。ありがとうございました。